教育随想

不易と流行、そして教育実践
―国語教育の立場から―

愛知教育大学
名誉教授　**丹藤　博文　氏**

次期学習指導要領の改訂方針が示され、その輪郭が明らかになりつつあります。教科専門の立場からすれば、生成ＡＩへの対応・デジタル教科書の運用が気になるところです。全国的な研究会の共同研究者や指導助言者を務めたり、先生方のレポートを拝読したりする機会があります。最近の印象として、個による主体的・探究的な授業、個別最適型の学習の研究発表やレポートが増加する傾向があります。それは今後も継続されるのでしょう。ただし、その際よく出される意見は、教師の役割とは何か、そこに言葉の学びは成立しているかというものです。「流行」の名の下に「不易」としての普遍的価値や子どもにとっての教育的意味を見失ってはならないのだと思います。

例えば、生成ＡＩに対する判断力や批判的思考力の養成が必要とされていますが、西尾実は、戦前、読みの指導過程を「素読・解釈・批評」としました。子ども主体による価値判断としての「批評」は早くから重視されていました。また、ひとりひとりがタブレットに向かって個別に学習をすすめていく授業も盛んですが、主体としての個は集団の中でこそ生かされるのであり、それは今も変わらないはずです。ほかにも、想像力・身体性・生活など、いつの時代にも不可欠な要素がおろそかにされないかと懸念されます。生成ＡＩもデジタル教科書も、手段であって目的ではないことは言うまでもありません。

子どもたちの発達や成長にとって、不易な意味なり価値なりがあるものなのかどうか。「流行」を批判的に見ていくことは、「流行」を一過性の現象として終わらせないためにも必要なプロセスであり、「流行」を追うばかりでなく、その向こうに「不易」を見ようとするところに教育実践の可能性も開かれるのではないでしょうか。

（たんどう　ひろふみ）

令和８年10月１日
10月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……1
愛知教育大学
名誉教授　丹藤　博文 氏
この人に聞く……2
食品製造販売会社
社長　峯田　和幸 氏
羅針盤……2
竜南中学校
校長　竹平　真仁
ふれあい……3
東海中学校
教諭　加藤　渡
特　集……4
風土の語り部　志賀重昂
～世界を知り、岡崎の未来を願った男～
お知らせ……6
フォト・ヒストリー…8
お別れ会（昭和51年）
この本を……8

生麩の可能性を広げる挑戦

食品製造販売会社　社長
峯田　和幸　氏

明治四十四年創業の生麩専門店の四代目として活躍する峯田さん。伝統食品である生麩の魅力や食文化を広げるべく、柔軟な発想で常に新しいことに挑戦する姿に迫る。

―どのようにして新商品を開発したのか教えてください―

新商品開発を手掛けていこうと考え始めたのは十年ほど前からでした。生麩は植物性たんぱく質を多く含み、どの食材とも合わせられるよさがあります。しかし、年中行事に伴う需要の変動が大きい、季節性のある商品です。また、需要も年々減ってきたため、閑散期にも何か仕事をつくらないといけないと思いました。

そこで、岡崎ビジネスサポートセンターに相談に行ったところ、「昔からある生麩は、知らない人にとっては新しい商品だ」と助言をもらいました。そして、二年の期間をかけて開発したのが「麩まんじゅう」でした。特に苦労したのは、九色の色合いでした。濃すぎず薄すぎない色目を工夫し、斬新かつ「和」を大事にした商品を目指しました。生麩の製造業務に加えて、商品開発を進めることは大変でしたが、周りの人の意見を取り入れながら試行錯誤を繰り返し、完成させることができました。

今までは既存の商品を作っているだけでしたが、「麩まんじゅう」を開発したことで、いろいろな新商品のアイデアが浮かぶようになりました。

―仕事に取り組む中で大切にしていることは何ですか―

機械化を進めつつも、肌で感じる部分を大切にしています。生麩を作るにあたって、小麦グルテンを使うことは絶対条件です。グルテンは季節や天候によって吸水量が変わるため、どのくらいの水が必要か見極めなければなりません。そして、新しい商品を開発しても、引き継いできた伝統的な生麩の味や食感を求めるお客様のために、昔ながらの製造工程を変えないように工夫しています。

一方、伝統にこだわりすぎないことも大切にしています。「生麩はこういうものだ」と決めつけると伝統は廃れていくように思います。若い人たちの豊かな発想を取り入れて生麩の可能性を広げるため、高校生や大学生との商品やレシピの共同開発にも取り組んできました。

また、人とのつながりを広げることも大切にしています。他の会社から新商品開発の依頼を受けることもありますが、そのときは、依頼をしてくれた方の思いに寄り添いながら、一緒に試行錯誤を重ねていきます。

―今後の展望について聞かせてください―

多くの人に生麩を手に取っていただきたいです。そのために、キッチンカーでの販売を様々な場所で行っていきたいです。生麩を食べたことのない人に、食べ歩き感覚で一度手に取ってもらおうと思っています。また、地元を大事にしたいので、岡崎の企業と共同して新商品を開発していきたいと思っています。

引き継いできた味や製法を大事にして、お客様の希望に寄り添いながら、新商品の開発に挑戦していきます。そうすることで、どの食材にも合うという生麩の魅力をさらに広げることができると考えています。

氏名　みねた　かずゆき（峯田　和幸）
生年月日　昭和四十六年十月十八日
住所　岡崎市日名本町

部活動の力

竜南中学校
校長　**竹平　真仁**

六月に開催されたサッカーワールドカップでは、日本代表チームの堂々たる戦いぶりが大きな話題となった。強豪国に先制されても決して諦めず、すぐに追いついたり、優勝経験のある国から先制点を奪ったりするなど、主力選手をけがで欠きながらも、日本中、いや世界中を驚かせた。また、試合後に客席のごみを拾う日本代表サポーターの姿も高く評価され、スポーツには人を育て、人を動かす力があることを改めて感じた。その原点には、学校教育や部活動での経験があると言われている。

岡崎市では令和七年度から、全ての種目が地域ブロック部活動へ移行した。Ａｕｔｕｍｎ ＣＵＰ、Ｓｐｒｉｎｇ ＣＵＰ、ＦＩＮＡＬ ＣＵＰも地域ブロックによる運営で実施されている。振り返れば、令和六年度の中学校の校長会議では、毎回、侃々諤々（かんかんがくがく）の議論が交わされた。私自

交わした約束

東海中学校
教諭　加藤　渡

Aさんは二年生のとき、駅伝の西三河大会で一区二・八km区間を務めた。二kmが主の中学女子にとってたいへんな距離を走り切った。しかし、Aさんは浮かない表情をしていた。

「自分がもっと速く走れていたら、あとを走った仲間があんなに後ろを走らずに済んだのに。」

悔し涙を流しながら続けて話した。

「私にとっての引退試合となる来年の市民駅伝までに、大好きな仲間を助けられるように、私を、市民駅伝の三・四km区間の第四区で、もっと速く走れる選手にしてください。県大会でも通用するくらいの速さで走れるようになりたいです。」

瞳に強い決意を宿したAさんを見て、その願いを叶えられるように練習を組んでいくことを約束した。

県で通用するほどの選手とは、三kmを十二分で走らなければいけない。

「どのくらいのペースで走ればいいのですか」と尋ねるAさんに、「トラックの二百m換算で計算すると、一周の速さは四十八秒。最初はストップウォッチを持ちながら何周までいけるかやってみよう」と提案し、練習が始まった。他の生徒が二kmの練習をする中、Aさんは三kmに合わせた練習を重ね、一周あたりのペースの誤差が〇．五秒以内になった。

しばらくして、Aさんは、「ペース感覚はだいぶ身に付きました。でも、どうしても二kmを過ぎた辺りから苦しくてペースを維持できません」と悩みを打ち明けた。切羽詰まった表情のAさんに私はこう伝えた。

「そういえば最近、速く走ることに追われて、走る楽しさを忘れていたね。少し走る景色を変えてみようか。」

Aさんの表情がふっと綻んだ。

「三kmを短く感じられるくらい長い距離を、今度は、ゆっくり走ろう。」と提案し、スタミナをつけるための練習や、コースを変えて走るメニューを組んだ。

他の部員と一緒に長い距離を走る練習に取り組んだ後には、仲間と楽しそうにハイタッチで達成感を分かち合うAさんの姿がそこにはあった。

練習を繰り返した結果、三年生になったAさんは、三kmを十一分三十秒で走るまでに成長した。

Aさんの引退試合となる市民駅伝当日。私は、「今度こそ走り切ったあと、笑おう」と言って送り出した。Aさんは深くうなずいた。

大会では、練習以上のペースで第四区間を走り抜き、順位を上げて、仲間にたすきをつないだ。Aさんは走り終わって集まった仲間と、健闘をたたえ抱き合った。

「走ることが好きな仲間とたすきをつなぐために、自分が三kmを悔いなく走ること。この願いを叶えることができました。駅伝部を続けてきて本当によかったです。」

あのとき流したAさんの悔し涙は、うれし涙に変わっていた。

身も不安を抱えながら、それでも近隣の学校同士で知恵を出し合い、工夫を重ねながら前に進んできた。今、大会が普通に開催されていること自体が、多くの関係者の努力の結晶であると感じている。

FINAL CUPバレーボール競技の開会式では、選手宣誓の中に「地域ブロックで出会った新しい仲間とともに」という言葉があった。その言葉に、この取組の意義が凝縮されているように思えた。三段階モデルのうち子供の地域移行は完了し、次の活動場所や運営主体の地域移行も着々と進められている。だが、何より肝心なのは指導者の確保である。

子供たちが部活動で見せる真剣な姿や輝く表情を間近で見たいと願う者が、子供たちとともに過ごす道を選んでいる。今、小中学校の教員が部活動指導員として手を挙げ、新しい世界へ飛び込もうとしている。子供たちのことをよく知る教師だからこそ、さらに子供たちを理解し、その可能性を伸ばしたいという思いがあるのだろう。その思いは人それぞれであるが、部活動でしか得られない目に見えない学びや経験は数多くあり、それらが子供の将来を支える力になるはずである。

スポーツや芸術には、それ自体に人を育てる力がある。これからも子供たちの歓声が、グラウンドや体育館、そして地域の様々な活動の場に響き続けてほしい。

風土の語り部　志賀重昂
～世界を知り、岡崎の未来を願った男～

▲岡崎市の街並みを望む志賀重昂の銅像（東公園）

東公園の丘に建つ銅像は、今日も岡崎の街を見つめている。岡崎で生まれた志賀重昂は地理学者、政治家、教育者など、多方面で活躍した。重昂の郷土愛は生涯を通して深まっていった。来年、没後百年を迎えるこの節目に、重昂の歩みとその思いをたどってみたい。

重昂が郷土愛を深めたきっかけは、世界各地を旅した経験であった。海外の文化や自然について学ぶ中で、重昂は日本の風土の価値を見つめ直し、そのすばらしさを『日本風景論』を通して世に伝えた。また、著作や講演、教育活動などを通して、その思いを広く伝えていった。『三河男児の歌』にも、故郷への誇りに満ちた重昂の思いが表れている。

重昂の思いは、道徳科、社会科、英語科など、教科・領域の垣根を越えて、岡崎市の教育活動に生かされている。子供たちは様々な学習を通して、地域の歴史や文化、自然について学びを深め、故郷である岡崎の魅力や価値に気づき、郷土への誇りや愛着を育んでいる。地域を大切に思い、その未来をよりよくしていこうとする子供の姿は、重昂の思いに通ずるものだと言える。

重昂の郷土を愛し、誇りとする心は、今もなお岡崎の教育の中に生き続け、未来を歩む岡崎の子供たちの背中を押している。

▲志賀重昂の遺骨が納められている墓(東公園)

～ 志賀重昂について ～

・『日本風景論』を刊行したり、木曽川の「日本ライン」や「恵那峡」を名付けたりするなど、世界旅行を通して学んだことを生かし、日本の風土の価値を発見した地理学者として活躍する。また、英国王立地理学会名誉通信会員に日本人として初めて選出される。
・立憲政友会から立候補して衆議院議員となり、外務省勅任参事官を任じられる。そこでマーカス島（南鳥島）を、日本領土へ編入させる活躍をみせる。また、地元である岡崎米穀取引所の存続を支援するなど、岡崎の産業や文化の発展に貢献する。
・東京専門学校、のちの早稲田大学にて地理学を講じ、世界に目を向けながら日本の風土や郷土の価値を考える教育に尽力する。また、旧制岡崎中学（現在の岡崎高校）でも講演し、石油の重要性を説くなど、岡崎市の教育にも貢献する。
・雑誌『日本人』を通して、当時の政府が主導していた欧化政策を批判し、日本の文化や伝統の価値を主張する。また、新聞『みかは』にて『三河男児の歌』を発表し、岡崎を中心とした三河の自然・歴史・偉人をたたえるなど、ジャーナリストとしての一面を持ち合わせている。
・1961年にこれまでの功績が評価され、岡崎市名誉市民に選出される。

▲志賀重昂（1863～1927）
（岡崎市美術博物館）

岡崎と志賀重昂

汝見ずや段戸の山は五千尺
又見ずや矢矧の水は三十里
憶う昔孤軍峻険に拠り
借問す当時将たる者は誰ぞ
須臾にして賊兵の勢は雷の如く
我が軍奮戦して弓剣砕け
潰ゆる者は辱を忍んで隴畷に匿れ
機や到らず余烈在り
吁嗟上帝の眼は朦朧たらず
矢矧の水は清く段戸の山は秀でたり
撥乱反正皇猷を賛け
何ぞ料らん治極まって人心弛み
天下の大勢西南に趨き
挽回豈に時無からんや
吁嗟段戸の山は誰が為に高く
三河男児其れ行け

雲巓天に参って終古碧なり
急湍石を噛んで矢より疾し
勤王を唱え妖孽を払わんと欲す
足助の次郎臣重範
千騎万騎山を撼して来る
七分は難に死し三分は潰ゆ
臥薪嘗胆仇を報いんと欲す
鬱々久しく待つ天定まるの秋
忽ち此の土に英雄を降す
鐘霊孕みだす東照公
舜雨堯風六十州
文括武煕表裏に変ずるを
三河の佳気恐らく長えに已まん
復興必ず期有り
矢矧の水は誰が為に号ぶ
三河男児須く奮起すべし

▲志賀重昂が書いた「三河男児の歌」の石碑と歌の内容（東公園）

～「三河男児の歌」に込められた思い～

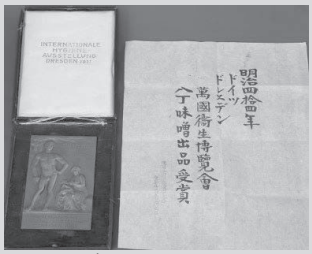
三河の人々よ、元気を出していきましょう。私たちには段戸山や矢作川など、郷土の大自然が味方についています。かつて、郷土の英雄、足助重範や徳川家康たちも、雄大な自然に守られて、苦楽を共にして歩んできました。その自然は今も変わることなく、三河の人たちを守ってくれています。ですから、先人と同じように、みなさんにも必ずチャンスがめぐってきます。あきらめずに、前を向いていきましょう。

（『夢をつむいだ人々』の「三河男児の歌」より引用）

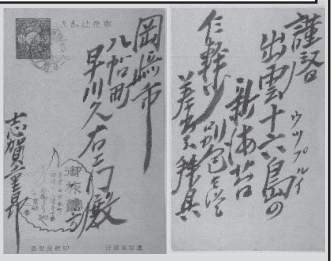
▲世尊寺（東公園）

世尊寺は志賀重昂の郷土の人々に対する感謝の気持ちから建てられた無宗派の寺院である。重昂がアジアを旅して収集した貴重な仏像などが納められており、現在は歴史や文化が息づく観光名所として多くの人に親しまれている。

カクキューの代表と交流があった志賀重昂は、自身の地理に関する知識や政治家として得た人脈を生かして、万国衛生博覧会に八丁味噌を出品することに尽力した。重昂の努力もあり、八丁味噌は世界に認められた。そして今もなお、岡崎の歴史と伝統を象徴する食品として、郷土の誇りにつながるものとなっている。

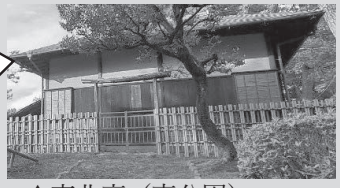


▲ドレスデンで開催された万国衛生博覧会にて受賞した３等賞の記念碑（カクキュー）



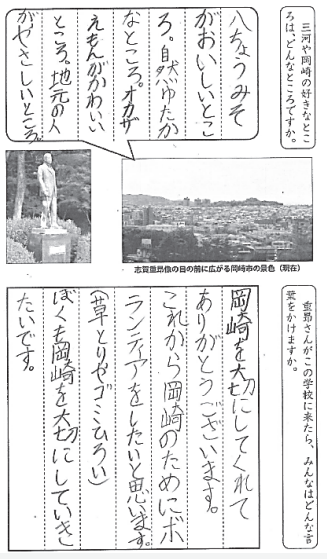
▲志賀重昂が早川久右エ門に宛てたはがき（カクキュー）

南北亭は、志賀重昂が世界各地で収集した材料で建築したものであり、重昂の遺志に基づいて、岡崎市に寄付されたとされている。（『岡崎市史研究』2002 年 12 月刊を参考とする）

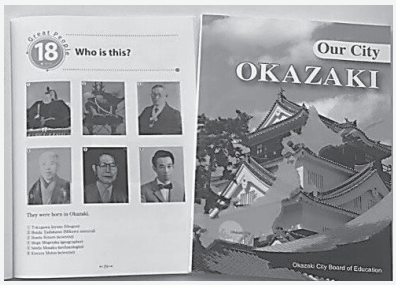


▲南北亭（東公園）

岡崎の教育を通じて引き継がれる志賀重昂の思い



▲『夢をつむいだ人々』を使った道徳科の学習（藤川小）



▲英語科教材『Our City OKAZAKI』

▲社会科教材『岡崎』

●令和八年度研究発表校

◆市委嘱（R6～8）

①岡崎市立矢作南小学校

十月十四日㈬

学びをデザインする子供の育成
―学びの土台づくりとファシリテーションの工夫―

矢作南小学校では、問いを見つけ、自ら学ぼうとする姿、学びを調整し、課題を解決する姿、新たな問いを立て、学び続ける姿を「学びをデザインする子供」と捉えている。こうした子供の姿の実現に向け、子供に学びを委ねる場面や時間を意図的に設定し、教師が学びの基盤となる環境や仕組みを整える「学びの土台づくり」を行ってきた。また、子供一人一人の状況に応じて学びを支え、教科の学びとともに自分で学びを進める力を身に付けられるよう、教師の「ファシリテーションの工夫」を大切にして実践を進めてきた。

当日は、研究発表、全学級の授業公開及び語る会を行う。

②岡崎市立南中学校

十月二十一日㈬

よりよく生きるための、生徒エージェンシーの育成
―みなみサイクルを取り入れた道徳・特活・総合を通して―

南中学校では、生徒が自ら目標を設定し、その実現に向けて粘り強く取り組む「生徒エージェンシー」の育成を目指し、研究を進めてきた。教育活動全体に「みとおす・おこなう・みつめなおす」の視点を位置付けた「みなみサイクル」を取り入れ、目標設定と振り返りを継続することで、生徒の主体性の向上を図った。また、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間において、他者と関わる場を設け、考えの再構築を促すことで、責任性につなぐ実践に取り組んだ。

当日は、研究発表、全学級の授業公開及び語る会を行う。

③岡崎市立竜谷小学校

十一月十一日㈬

「学ぶ力」を磨き合い、未来社会の創り手となる子供の育成
―情報活用能力を学習の基盤とする取り組みを通して―

竜谷小学校では、情報活用能力を系統的に育成するカリキュラム・マネジメントを進めてきた。そこで培った力を目的に応じて活用し、思考を深める手立てとして用いる姿を目指している。その上で、子供たちが、個の追究と協働的な学びを往還し、未来に生きて働く「学ぶ力」（計画する力・比べる力・関わる力）を相互に磨き合うことを大切にしてきた。さらに、自己の学びの診断活動によって学びを支える工夫を行っている。

当日は、研究発表、全学級の授業公開及び語る会を行う。

◆自主研究発表

○岡崎市立竜海中学校

十月七日㈬

未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成
―教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して―

教科学習の有用性を実感できる授業を目指して実践を行ってきた。手だては、まず、実生活や実社会の事象が学びのきっかけとなるような単元の導入の工夫。次に、全員が分かるための学習過程の工夫。そして、本時の学びを基に発想する「クリエイティブチャット」を行う場の設定である。

当日は、道徳を除く全教科の授業公開と協議会を行う。

●表　彰

◆第53回全日本中学校陸上競技選手権大会

○男子の部
・８００ｍ
８位　六ツ美北　柵木　快心

○女子の部
・１５００ｍ
７位　美川中　柴田　和佳
・走高跳
出場　甲山中　森田　あお
・８００ｍ
出場　新香山中　白石　絆那
・四種競技
出場　竜海中　川瀬　彩葉

◆第66回全国中学校水泳競技大会

○男子の部
・１００ｍ背泳ぎ
出場　竜海中　杉山　凱星

○女子の部
・１００ｍ平泳ぎ
出場　翔南中　坂野　愛莉

◆第56回全国中学校剣道大会

○男子個人の部
出場　岡崎ＷＥＳＴ
重富　晴陽

◆第48回東海中学校総合体育大会バレーボール大会

○女子の部
出場　岡崎ＷＥＳＴ
出場　岡崎ＣＥＮＴＲＡＬ

◆第48回東海中学校総合体育大会ソフトテニス大会

○女子団体の部
出場　岡崎ＷＥＳＴ

○女子個人の部
出場　岡崎ＷＥＳＴ
太田さくら
太田　未羅

◆第48回東海中学校総合体育大会卓球大会

○女子団体の部
出場　岡崎ＭＵＴＳＵＭＩ

○女子個人の部
出場　岡崎ＳＯＵＴＨ
小堀　栞奈

◆第48回東海中学校総合体育大会剣道大会

○男子団体の部
出場　岡崎ＭＵＴＳＵＭＩ

○女子団体の部
出場　岡崎ＷＥＳＴ

○男子個人の部
３位　岡崎ＷＥＳＴ
重富　晴陽

◆第48回東海中学校総合体育大会陸上競技大会

○男子の部
・1年1500m
3位　甲山中　渡邉　櫂
6位　竜南中　副島　璃久
・走幅跳
4位　新香山中　深見　泉嘉
・走高跳
6位　六ツ美北中　市川　湊
・3000m
7位　新香山中　藤井　大地
・400m
出場　岩津中　中村　流快
・800m
出場　南中　杉山　喜一
・円盤投
出場　翔南中　平松　稜也
出場　福岡中　三浦　快斗

○女子の部
・走高跳
2位　甲山中　森田　あお
4位　翔南中　野村　柚衣
出場　福岡中　鈴木　未来
・1500m
3位　美川中　柴田　和佳
出場　竜南中　安藤　美琴
・800m
3位　新香山中　白石　絆那
・1年800m
5位　矢作中　楓　汐莉
・2年100m
出場　福岡中　増田陽茉莉
・走幅跳
出場　甲山中　近藤　彩
・砲丸投
出場　六ツ美北中　安立　茉加
・円盤投
出場　矢作中　西原　凪紗

◆第48回東海中学校総合体育大会水泳競技大会

○男子の部
・100m背泳ぎ
2位　竜海中　杉山　凱星
6位　葵中　杉原　歩武
・200m個人メドレー
7位　南中　塙　侑剣
・100m平泳ぎ
出場　城北中　加賀谷太一
・4×100mフリーリレー
出場　城北中
長谷川一樹・菅原陵大朗
大平　琉陽・加賀谷太一

○女子の部
・100m平泳ぎ
3位　翔南中　坂野　愛莉

◆第48回東海中学校総合体育大会体操競技大会

○男子個人総合
出場　矢作北中　益田　琉

◆第43回NHK杯全国中学校放送コンテスト

○ラジオ番組部門
出場　竜海中　パソコン部

◆2026年度愛知県吹奏楽コンクール県大会

○中学校A編成の部
金賞　岡崎South M
岡崎West Y

◆第66回愛知県合唱コンクール

○中学生部門　同声合唱の部
金賞　岡崎イースト
Ryukai JH

○小学生部門
金賞　三島小

◆2026年度愛知県小学生バンドフェスティバル

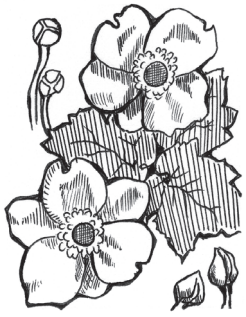
金賞
愛知県教育委員会賞
朝日新聞社賞　竜美丘小

◆第93回NHK全国学校音楽コンクール愛知県大会

○小学校の部
金賞　三島小
銀賞　六名小
山中小

◆第56回愛知県野生生物保護実績発表大会

愛知県教育委員会賞　生平小
愛知県自然観察指導員連絡協議会賞
河合中
公益財団法人　愛知県獣医師会賞
東海中



第64回岡崎市小学校体育大会　水泳競技の部　大会結果

【北ブロック】会場：市内小学校プール　新…大会新記録

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	鈴木董志郎	大樹寺小	36″1	大平　彩葉	広幡小	新 31″7
6年 50m自	木俣　亮佑	細川小	32″7	島田　珠青	矢作東小	36″4
6年100m自	伊野　和志	梅園小	1′17″9	成田　望愛	岩津小	1′30″2
6年100m平	譲原　康輝	岩津小	1′35″8	亀山　紗来	広幡小	新 1′20″2
6年 50m背	川合　耀太	梅園小	47″2	服部　優咲	矢作東小	37″7
6年 25mバタ	中井　陽太	大門小	18″3	中山　萌維	岩津小	21″2
6年 50m平	牧原　叶依	矢作東小	51″0	鈴木　結稀	矢作東小	52″3
200mリレー	木俣・小野 丸山・吉積	細川小	2′38″7	島田・鈴木 山口・服部	矢作東小	2′31″4

【南ブロック】会場：市内小学校プール　新…大会新記録

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年 50m自	岩瀬清志郎	羽根小	37″1	柳下　悠希	六ツ美北部小	40″3
6年 50m自	齊藤　音 中根　篤希	六名小 六ツ美北部小	35″5	千代島　凛	小豆坂小	35″5
6年100m自	戸松　戒斗	六ツ美西部小	1′15″5	壁谷　柊南	岡崎小	1′14″8
6年100m平	横山倫汰朗	上地小	新 1′16″4	星川　愛理	岡崎小	1′26″1
6年 50m背	山内　勇輝	福岡小	41″6	竹内菜々花	岡崎小	36″9
6年 25mバタ	天野　泰志	六名小	16″2	稲吉　花香	六名小	16″4
6年 50m平	永谷　響己	上地小	45″0	渡辺　光葵	六名小	48″0
200mリレー	中根・杉崎 中村・種池	六ツ美北部小	2′22″7	竹内・柚木 壁谷・星川	岡崎小	2′17″4

教職員の相談窓口

【対象】全教職員　【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと　等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談(SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日　12:00 ～ 19:00 土曜日　12:00 ～ 16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
あいちこころのサポート相談(SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日　20:00 ～ 24:00 日曜日 20:00 ～ 翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0564-83-9743	月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:00	
あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休　9:00 ～ 20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休　24時間	

お別れ会
（昭和51年）

写真提供：男川小学校

この写真は、男川小学校で行われたお別れ会の様子である。男川小学校と三島小学校の一部が分かれ、新設校となったのが竜美丘小学校である。校舎が未完成であったため、一学期は一緒に過ごし、お別れ会は八月に行われた。

会では、変わらぬ友情を誓い合い、「友愛の木」としてけやきの苗木を互いに贈った。そして、教員の作詞作曲による「わかれのうた」の合唱が行われた。新たに竜美丘小学区となる地域から贈られた像は、現在も男川小学校の来賓玄関に飾られている。

学校にはそれぞれの歴史があり、その節目を大切にしている。子供たちは、多くの方々の思いや人とのつながりを感じながら、郷土愛を育んでいく。

・カット　南中　成田絢香

この本を

＊世界は認知バイアスが動かしている
栗山　直子
SBクリエイティブ　¥1, 700

心に残った一文

自分を知ることが、情報にあふれ、先行きが不透明な今の時代の最大の武器になる

認知バイアスとは、思い込みや先入観により判断が偏る現象である。私自身、認識のずれから誤った判断やすれ違いを経験してきた。子供への指導において、教師自身がバイアスを自覚し、多面的に物事を捉えることが重要である。また、子供たちにとっても、思い込みを問い直す力はぜひ身に付けさせたい資質の一つである。

先行きが不透明なVUCA時代には、認知バイアスに惑わされず、本質を見抜く「アート」の視点が求められる。理論に基づく「サイエンス」だけに頼らず思考を省察し、美意識や感性を磨いていきたいと思う。

＊世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？
山口　周
光文社　¥920

＊鬼滅月想譚　**植　朗子**
朝日新聞出版　¥1, 500

＊名画で読み解くメディチ家12の物語　**中野　京子**
光文社　¥980

岡崎小学校　松坂　禎文

とホッ

宝石のような麩まんじゅうが店先を彩る。峯田さんは生麩の新しい価値を見出し、更なる可能性を探求し続けている。その原動力は、作ったものを「おいしい」と食べてもらえた喜びである。

新しいものを作り出すには時間や手間が伴う。次に出合う「おいしい」という声のために、試行錯誤の日々は続いていく。

時を超えて、志賀重昂の郷土を愛する心が、今を生きる我々へと受け継がれている。その思いは百年たった今もなお、岡崎の子供たちの心の土台となっている。

「風土の語り部」である重昂の生き様や思いを次の世代に伝えていくことは、私たち教師にとって大切な役割である。

神無月

次の一音に心を寄せ、指揮者の指先に視線を向けて一斉に息を吸う。合唱コンクールに向けて、仲間の声に耳を傾けながら歌声を重ねる。高まる一体感や真剣な表情に、生徒の成長を感じる。

その歩みに寄り添い、思いを分かち合えることは、教師ならではの醍醐味であり、子供たちと向き合う励みとなる。

▲「井田んぼ」の稲刈り（井田小）